2016夏　南京・拉孟フィールドワーク　飛田雄一 『むくげ通信』278号、2016.9.25

8月、神戸・南京をむすぶ会のフィールドワークで中国を訪問した。20回目だ。もともとは1996年4～5 月に開催した「丸木位里・俊とニューヨークの画家たちが描いた南京1937絵画展」のボランティアが一度は南京現地に行こうということで翌 97年8月に、南京・淮南を訪ねたのだ。1回きりの旅行グループのつもりだった。淮南はパールバック『大地』の舞台だ。地平線まで続く大豆畑を感動してずっと見ている私たちを現地ガイドが理解不能という顔をしていたのを思い出す。

草鞋峡記念碑、利済巷「慰安所」陳列館

南京ともう一ケ所を訪問するのが人気となって、その後毎年続いた。正確には、2003年SARS事件のときは中止したが、2007年には8月と12月の「侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館」リニューアルオープンの2回訪問したので年一回の割合で訪問したことになる。南京以外の訪問先は、淮南以降、撫順、太原・大同・北京、ハルビン、蘇州・杭州、重慶、大連・旅順、済南・青島、無錫・石家荘・天津、武漢、瀋陽・長春、牡丹江・虎頭・虎林、延辺朝鮮族自治州、海南島、香港、台湾、無錫・上海、広州。そして今回は、南京のあと雲南省だ。よくいろいろ行ったものだ。8/13～15、南京で南京大虐殺の現場を訪ね、記念館では追悼集会と幸存者から証言をうかがった。

●

雲南省の「拉孟・騰越の闘い」は、援蒋ビルマルートを遮断するために置かれた日本軍守備隊と、中国軍との激しい戦いがおこなわれた所だ。現在の地名では拉孟は松山、騰越は騰冲だ。圧倒的に優勢な中国軍に包囲された日本の守備隊が全滅した戦いとして知られている。

遠藤美幸『「戦場体験」を受け継ぐということ―ビルマルートの拉孟全滅戦の生存者を訪ね歩いて―』(2014.10、高文研) というすぐれた本があるが、私も事前に読んで臨んだ。すごい本だ。

8/16、午前に「民間抗日戦争博物館」訪問ののち、南京空港から飛行機で、昆明へ、そして飛行機を乗り換えて保山に到着した。夜9時前にホテルに到着した。翌17日、保山から専用バスで拉孟（松山）陣地に向かう。山へ山へと登り、怒江（サロウイン川）を渡り西岸の拉孟陣地に到着。標高2千メートルで涼しい。気温は3～20度、南京の暑さが嘘のようだ。2004年から「滇西抗日戦争松山戦役主戦場」として整備されるようになった。歩きやすい木道だ。日本軍の壕やトーチカ、水源地跡、砲弾跡、軍事教練広場、中国遠征軍の「交通壕」跡などがよく保存されている。

拉孟陣地、日本軍のひとり塹壕、恵通橋（この写真は沢田猛さん）

午後はこのフィールドワークのハイライトとも言える「恵通橋」。しかし、大型バスの通行は無理とのことでやむなく代表5名だけがタクシーで恵通橋に向かった。この橋は、ビルマルート滇緬公路の要所で、激戦地。東から攻める日本軍を阻止するために中国軍が自ら爆破したのである。

今回の旅は、拉孟・騰越はこの機会を逃したら行けないかも、20 回目なので来年はないかもという風聞が広まったためか？過去最高の 40 名が参加した。うち 31 名が拉孟も訪ねた。全員が行きたい恵通橋行きメンバー5名を選ぶのはツアコンの役割で、私自身はやむなく辞退した。

恵通橋メンバーに聞くと、その道は石や砂利を敷いただけの当時のままで、車の振動激しく、道幅も狭く、こう配が急で運転手は大変、何度も頭を打ったという。でも山の景色はとても美しく 4000m 級の高山が遠くまで連なり、高地から恵通橋まで下ると蒸し暑さが増していったとのことだ。

恵通橋に行けなかったグループは、直接、龍陵へ出発した。市内の旧日本軍慰安所陳列館、56 師団前線司令部跡を訪ねた。龍陵は1944年、日本軍守備隊と中国軍雲南遠征軍との激戦地で、ビルマルートが市街地の中心を貫き、日本軍第56師団歩兵団司令部の置かれた軍事拠点であった。ここでも住民は日本軍により甚大な被害を受けた。

龍陵賓館で両グループは合流して夕食、そしてツアコン室で反省会となる。雲南料理は、薄味で野菜桃多くどこの店もみんな美味しかった。

●

18 日朝、日本軍のトーチカが残っている「龍陵抗戦紀念碑公園」を見学したのち騰冲（騰越）に向かった。騰冲は宿場町・交通の要所として古くから栄えた城郭都市で、リゾート観光都市として知られている。

昼前に騰冲に到着し、この日は早い目にホテルにチェックインして、「和順・金農荘」でゆっくり昼食をとった。野菜、果物、きのこをふんだんに使用した超ヘルシー料理で美味しい。

午後、「滇西抗戦紀念館」を見学した。2013年にオープンした資料館で、雲南戦の全体がうかがえる重厚な展示となっている。雲南各地の戦闘の状況が図表、ジオラマ、遺品、証言などで表現されている。日本軍による虐殺・拷問・地域破壊・略奪の凄まじさ、全ての戦場に置かれたという「慰安所」の実態、勝利に至る中国遠征軍・アメリカ軍の道筋など見ごたえある展示だが、当事者である日本人には辛い展示内容である。

その後、「国殤墓苑」を見学。雲南戦で戦死した中国人将兵の墓苑で、小高い丘の全面が小さな墓石で覆われている。9000 人分の墓石には階級と名前と年齢が刻まれている。墓苑の一角に日本兵数人を

葬ったという「倭塚」が残されていた。撤去の要望もあったが残そうと主張した中国人がおられたおかげで残っているという。

9000 の墓石のひとつ、「倭塚」

夕方早い目にホテルに戻った。各自散歩、お買い物ということで、私も名物の翡翠（ひすい）店に入ったが買わなかった。翡翠はカワセミ（川蝉）でもある。バードウオッチャーの私はいつもカワセミを狙っているがいまだ不発？だ。騰冲の川でも見ることができなかった。

●

旧英国領事館、その弾痕

19 日、バスで移動して「旧英国領事館」を訪ねた。1944 年、旧日本軍騰越守備隊が立てこもり全滅したところである。現在は修復され立派な石造りの建物になっているが、中国軍が打ちこんだ弾痕がたくさん残されていた。

次に「文廟」（左）を訪ねた。文廟は歴史が古く、1480 年に創設された孔子廟だ。戦争中旧日本軍騰越守備隊の憲兵司令部が置かれたため、ここでも激しい戦闘がおこなわれた。幸いにも焼失を免れ、美しい建物が残されている。ここにも日本軍将校のための「慰安所」が設けられていたという説明版があった。

そして騰冲最後の訪問地、「来鳳山」へ向かった。山頂付近に多くの陣地があるが、そのうちの一つに登った。バスは本来入口までしか行けないが、ガイドが交渉をしてくれて山頂近くまでバスで行くことできた。いくら涼しい雲南とは言え急坂を登ると大変だったと思う。

日本軍は 1942 年、騰越に入城するとこの山に 4 つの陣地を構築した（桜、梅、菊、成合）。44 年にはここが激戦地となり日本軍は全滅したのである。

昼食後、騰冲空港に向かう。ここから飛行機でまず昆明に飛び、乗り換えて上海に向かった。今回は、よく飛行機に乗った。飛行機は、すべて 中国東方航空（MU）。今回の旅行も飛行機は国際線、中国国内線もすべて神戸華聯旅行社の金啓功さんにお世話になった。中国では、過去 19 回、南京のガイドをしてくださった戴國偉さんが拉孟も含めてコーディト/同行してくださった。4 月に拉孟騰越の事前調査もしてくださりそのレポートを適宜送ってくださった。最初のころは中国との交信は手紙、FAX だったが、今は e-mail、ほんとに便利になった。でも PDF ファイルで間に合わないような書籍等はもちろん現物を送るのである。それはそれでいいものだ。

そして、上海浦東空港着 10 時 30 分、夕食は機内食だ。仕方がない。ホテルについたのは 11 時 20 分。この日は反省会もなくおとなしく就寝した？

●

ガーデンブリッジ、 旧「大一サロン」、尹奉吉の「現場碑」

20 日、最終日だ。上海バンド（旧租界、神戸租界より大きい）散策。めっちゃ暑い。高齢のメンバーが気になる。写真を撮りにすぐどこかに消えてしまうメンバーも心配だ。ツアコンもふらふらだ。涼しい雲南がなつかしい。ガーデンブリッジを渡り、チャップリンも泊まったｱｽﾀｰﾊｳｽﾎﾃﾙのロビーで休んだ。

メンバーの宋連玉さんの地図をたよりに上海の高級将校用の慰安所となった旧「大一サロン」を訪ねた。改修工事が行われていたが記念館になる予定とのこと。

ここで、今回の旅の最大のトラブル、その建物の住民とのトラブルだ。1 階の住民は中も案内してくださり写真も OK だった。その方が 2 階も OK というので数名が 2 階に上がったが、2 階の住民にひどく叱られた。自分を写したカメラの画像を目の前で削除せよという。言葉が通じなくてもすごい剣幕で怒られたら即撮影を中止しなければならない。それでも撮影したメンバーがいたのである。外で待っていた私たちはどうすることもできず、ガイドの戴さんにお任せするしかない。中国でもツアコンをする私は、ニーハオ、サイチェン、シンクーラ（ごくろうさん）しか言えないのである。

一度 2 階へ上がって降りてきた他のメンバーももう一度 2 階にもどって画像削除など。私は、それでも怒りが収まらなかったら SD カードを目の前で破壊するしかないかなとメンバー救出に 2 階に上がろうかと考えていた時に全員、外にでてきた。戴さんに感謝感謝だ。

昼食後、魯迅記念館、大好き魯迅にゆっくりひたった。1932 年 4 月 29 日、虹口公園で爆弾を投げつけた尹奉吉の記念館を訪ねた。生誕の地・韓国礼山も、処刑され埋葬された金沢陸軍墓地も訪問したことのある尹奉吉のことを改めて学んだ。前回来た時には素敵な朝鮮族の女性案内人が朝鮮語で説明して下さったが、今回そのような案内人はいなかった。残念。

そして上海浦東空港から関空へ。午後 9 時 30 分到着予定が 10 時 40 分になった。上海出発も遅れたのですでに上海空港で解団式は済ませておいた。メンバーは荷物をピックアップすると、一目散に帰路についた。が、広島行きの夜行バスに間に合わずに S さん宅に泊まったもの、東京にもどれずに I さん宅になだれ込んだ複数のメンバー、梅田まで行ったが力尽きて始発までそこで過ごしたものなどなど。私は、三宮行きリムジンに間に合い、最後はタクシーで家に戻った。みなさん、ごくろうさまでした。（関空の 24 時間化に伴い夜中も 1 時間おきに梅田までリムジンが出てますよ、知ってました？）